



2020 年度 教育開発・学習支援センター一年報

目 次

2020 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告 -----	1
2020 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット -----	4
学習サポートユニット -----	6
データ活用推進ユニット -----	9
巻末資料 -----	12

2020 年度 教育開発・学習支援センター活動報告

1 体制

教育開発支援機構長： 児美川孝一郎（キャリアデザイン学部教授）
センター長： 山本兼由（生命科部教授）
教育サポートユニット・リーダー： 酒井理（キャリアデザイン学部教授）
サブリーダー： 遠藤野ゆり（キャリアデザイン学部教授）
学習サポートユニット・リーダー： 高橋美穂子（経営学部教授）
サブリーダー： 田路則子（経営学部教授）；山田快（経済学部准教授）
データ活用推進ユニット・リーダー： 菅幹雄（経済学部教授）
サブリーダー： 池上宗信（経済学部教授）；北浦康嗣（社会学部教授）
事務局： 学務部教育支援課

2 活動報告

（1）全般にかかわる活動

コロナ禍により強いられたオンライン学習の環境整備に向け、学習支援システムのシステム増強およびメンテナンス強化を行った。本学で提供する各種ツールのファーストガイドを作成、公表し、オンラインを活用した授業実施の支援を行った。また、授業支援アシスタントおよびラーニングサポーターの採用枠を大幅に増やし、教員が実施するオンライン授業を支援することで学習環境の整備を図った。SD 支援として FD ワークショップを開催し、LF センター広報方針に基づきオンラインを活用した広報活動を強化した。

FD 推進センターと学習環境支援センターから引き継いだ業務を整理し、教育開発・学習支援センター業務リストを作成した。センターと学内関連組織との連携を図る学習環境改善検討委員会を立ち上げた。

（2）教育支援にかかわる活動

新システム（FD マネージャー）による授業改善アンケートを実施し、各授業担当者が Web 上で担当授業および全学集計結果を確認することを可能とした。オンライン授業に関する教員向けセミナーとして、FD セミナーおよび HOSEI2020 オンライン授業支援特設チームとの協働セミナーを実施した。また、FD 教員研修を 2 学部で実施した。さらに、GPCA についても全学集計結果を公開するとともに、各授業の GPCA 集計結果を各授業担当者が Web 上で随時確認することを可能とした。

（3）学習支援にかかわる活動

学生対象のオンライン授業に関するアンケートを行い、受講環境状況、よりよいオンライン授業を実施するための方策、オンライン授業におけるメリットとデメリット等をまとめ、学内外に公表した。例年通り『学習支援ハンドブック』の改訂を行った。また、ピアネット運営委員会による全学的正課外学習支援を行い、ピアネットの学生スタッフ活動のオンライン環境実施を支援した。さらに、L ステゼミに 8 回の講座を提供した。ピアネット合同企画として「新 2 年生サポート Days」も実施した。

3 各ユニットの活動

（1）教育サポートユニット

- ・教員向け FD セミナーの企画・開催

第 1 回 FD 教員セミナー（7 月 4 日 10:00～11:30）

[巻末資料 1]

「オンライン課題・試験の学習支援システムにおける活用事例ミーティング」

「試験形態と活用事例のポイント」遠藤野ゆり氏（キャリアデザイン学部教授）

「グループワーク」

第 2 回 FD 教員セミナー（11 月 21 日 13:00～15:00）

[巻末資料 2]

「著作権法 35 条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作」木村友久氏（帝京大学教授）

第3回 FD 教員セミナー (2月2日 17:00~19:00)

[巻末資料 3]

「オンライン授業におけるインストラクショナルデザイン」鈴木克明氏 (熊本大学教授)

- ・職員向け FD ワークショップの企画・開催

第21回 FD ワークショップ (9月4日 13:00~17:10)

[巻末資料 4]

「大学職員による教学改革のためのデータ活用・分析」

「大学職員に必要なデータリテラシー」井芹俊太郎氏 (総長室付大学評価室 IR 担当)

「オンライン授業に関する学生対象調査の結果について」菅幹雄氏 (経済学部教授)

「グループワーク」

- ・FD 教員研修を企画し、2学部 (法学部・経営学部) で実施

実施内容: FD 活動について、学習支援システムの使用について、Turnitin (剽窃チェックソフト) の使用について

- ・GPCA 集計結果公表の Web 化と全学集計結果の報告

- ・「授業リフレクションのための学生による授業参観」を企画し、3 教員の申込があり実施

- ・会議など

教育サポートユニット会議 1回 (6/12) + 事業進捗状況に応じて、Slack により適宜情報共有・会議を実施

(2) 学習サポートユニット

- ・ピアネット運営委員会による全学的正課外学習支援とオンライン化対応支援

- ・『学習支援ハンドブック』の改訂と利用促進に向けた検討

- ・L ステゼミに 8 回の講座提供

「レポート作成の“基本の基本”を学ぼう! (7月10日実施)」多田和美氏 (社会学部准教授)

「大学図書悪寒を有効活用! ~レポート・論文資料の探し方~ (7月14日実施)」有川博隆氏 (図書館職員)

「法政発スタートアップにみる起業プロセス (11月18日実施)」田路則子氏 (経営学部教授)

「体脂肪の増減に関わる運動と栄養の話 (11月11日実施)」林容市氏 (文学部准教授)

「クイア・スタディーズ入門ジェンダー、セクシュアリティについて学ぶ人のために (12月2日実施)」

岩川ありさ氏 (国際文化学部准教授)

「with コロナ時代の観光の行方 (12月9日実施)」野田岳仁氏 (現代福祉学部准教授)

「大学図書悪寒を有効活用! ~レポート・論文資料の探し方~ (12月21日実施)」有川博隆氏 (図書館職員)

「レポート作成の“基本の基本”を学ぼう! (1月15日実施)」多田和美氏 (社会学部准教授)

- ・ピアネット合同企画として「新2年生サポート Days」を実施した。

学習相談、課外活動相談、進路相談、留学・語学相談のコーナーを設け、各団体の学生スタッフ・教職員が対応。キャンパスツアーも実施。

- ・ピアネットを構成する各団体において、活動の事前・事後にピアネット・コンピテンシーテストを実施

- ・会議など

学習サポートユニット会議 4回 (5/6・6/22・12/17・3/1)

学習ステーション運営委員会 7回 (4/2・6/4・9/17・11/12・1/8・2/12・3/4)

ピアネット運営委員会 7回 (4/9・6/11・9/24・11/12・1/14・2/18・3/11)

学習支援システム運営委員会 2回 (6/30・12/21)

(3) データ活用推進ユニット

- ・新システム (FD マネージャー) による授業改善アンケート実施

- ・学生対象の春学期オンライン授業に関するアンケートの企画・実施・集計・分析・公表 (大学評価室と協働)

調査目的: 2020年4月21日より全学的にオンライン授業を実施するなかで、学生がどのように学習に取り

組んできたのか、またどのような点に課題を感じているかを把握し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。

調査期間: 2020年7月27日~8月7日

調査対象: 全学部生・大学院生 (通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む)

実施方法: Google フォームを活用したオンライン

回答数 : 8,307 名

- ・ 学生対象の秋学期オンライン授業に関するアンケートの企画・実施・集計・分析（大学評価室と協働）

調査目的：秋学期に実施したオンライン授業について、学生がどのように学習に取り組んできたのか、どのような点に課題を感じているかを把握すると同時に、春学期から秋学期にかけてのオンライン授業に対する印象の変化を調査し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。

調査期間：2021年1月25日～2月5日

調査対象：全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）

実施方法：Google フォームを活用したオンライン

回答数 : 3,773 名

- ・ FD 川柳実施およびマトリックス・ループリックなどツール開発の見送り
- ・ 会議など

データ活用推進ユニット会議 8回（5/26・6/23・7/21・8/25・9/29・10/27・11/17・12/1）

+ 事業進捗状況に応じて、メーリングリストにより適宜情報共有・会議を実施

4 学内会議

(1) 教育開発支援機構企画委員会 10回（4/30・5/19・7/16・9/24・10/22・11/19・12/17・1/21・2/18・3/11）

(2) ユニット・リーダー会議 10回（4/14・5/12・6/16・7/14・9/1・10/13・11/10・12/8・1/12・3/9）

5 所属学会・参加団体・外部対応

(1) 大学教育学会：団体会員

(2) 初年次教育学会：機関会員

(3) 日本リメディアル教育学会：賛助会員

(4) 全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPF：Japan Private Universities FD Coalition Forum）

（38 大学加盟）：幹事校

幹事会・総会（6/1～10・6/15～24）、幹事校・会員校ミーティング（1/20）

(5) 関東圏 FD 連絡会（青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学）

連絡会（10/26・3/16）

6 その他

学外セミナー参加

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター「教育成果を可視化するための統計手法入門」

（9/26）：教員 1 名

日本私立大学連盟「令和 2 年度オンライン FD 推進ワークショップ」（12/13）：教職員 2 名

立命館大学教育・学修支援センター「新常態（new normal）における高等教育の展望」（1/29）：教職員 2 名

大学コンソーシアム大阪「大学職員のためのインストラクショナル・デザイン研修」（2/19・26）：職員 1 名

大学コンソーシアム京都「第 26 回 FD フォーラム」（2/20・21・27・28）：教職員 4 名

以上

2020年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I 2020年度活動計画（2020年7月16日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1 活動目的

学部教授会等に対するFD活動支援や教員グループ等に対する授業改善支援、教職員の研修等の企画・実施・支援、「学生FDスタッフ」活動の支援、GPCAなどを活用した成績評価のあり方に関する検討、シラバス、アクティブラーニングなどICT授業支援ツールの企画や普及などの検討により、教育活動の活性化及び実質化を図る。

2 活動計画

(1) ミドル・レベル（学部・学科単位）でのFD活動の支援

① 学部などへの個別FD活動支援

- a. 2019年度の実績を踏まえ、春学期、秋学期で希望を募り支援活動を実施する（春学期の実施は困難と思われるので見送り、秋学期3学部を目処に）
- b. 支援テーマについては昨年度の実績に基づいてユニットで検討
 - ・オンライン授業における著作権の取り扱い
 - ・Turnitin（剽窃チェックソフト）のインストラクション

② 学生モニター制度の活性化

- a. 名称の変更（ユニット会議で変更を検討する）
- b. オンライン授業での学生モニター活用方法を検討する（同上）
- c. 5月中に検討して6月から募集をかけて実施予定

(2) 成績評価のあり方に関する検討

① 2019年度GPCA集計の分析

春学期中をめどにユニット内のワーキングにおいて分析をおこなう

② GPA評価に関する指針策定の方針

秋学期にユニットでたたき台を作成し、年末までにリーダー会議に提示予定

(3) 各種イベント

① シンポジウム、フォーラム、ミーティング、ワークショップ、セミナーは2019年度より廃止

② 双方向型・オンライン型FDワークショップ（ミーティング）の開催（学習支援システムの活用）

- a. 定期試験、レポート提出の時期にむけて学習支援システムの使い方に特化したワークショップは可能（5月下旬か）
- b. Turnitinの活用方法を組み合わせる
- c. オンラインの著作権問題

(4) その他

① 年次報告書の作成

掲載情報を収集・蓄積して作成（3月発行）

3 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

秋野喜彦（情報科学部）／石坂恒太（学務部教育支援課[事務局]）／板橋美也（人間環境学部）／**
遠藤野ゆり（キャリアデザイン学部）／Gregory Khezrnejat (GIS)／*酒井理（キャリアデザイン学部）
／中村有貴（大学院事務部大学院課）／根橋 巧（学務部教育支援課）／向井知大（法学部）

II 2020年度活動実績（報告）

1 ミドル・レベル（学部・学科単位）でのFD活動の支援

① 学部などへの個別FD活動支援：**2学部実施**

（1）法学部教授会による研修

実施日時：2020年10月16日（金）15：10～15：40

内容：FD活動について、学習支援システムの使用について、剽窃チェックソフトの使用について等

（2）経営学部教授会による研修

実施日時：2020年10月19日（土）15：00～15：30

内容：FD活動について、学習支援システムの使用について、剽窃チェックソフトの使用について等

② 学生モニター制度の活性化

名称の変更：＜授業リフレクションのための学生による授業参観＞ **[巻末資料 5]**

実施期間：2020年10月26日（月）～2021年1月20日（水）

説明会参加学生

申込教員数：3名

派遣学生数：9名（1授業3名）

2 成績評価のあり方に関する検討

① 2019年度GPCA集計の分析

今年度中に終了せず来年度持ち越しで継続

② GPA評価に関する指針策定の方針

分析に付随して教育サポートユニットで継続

3 各種イベント

① 双方向型・オンライン型FDワークショップ（ミーティング）の開催：**4回実施**

（1）2020年度第1回FD教員セミナー **[巻末資料 1]**

開催日時：2020年7月14日（土）10：00～11：30

テーマ：オンライン課題・試験の学習支援システムにおける活用事例ミーティング
～みんなの知恵を集めて解決するミーティング！～

参加者数：75名

（2）2020年度第2回FD教員セミナー **[巻末資料 2]**

開催日時：2020年11月21日（土）13：00～15：00

テーマ：著作権法35条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作

講師：木村友久（帝京大学共通教育センター センター長/教授）

参加者数：76名

（3）2020年度第3回FD教員セミナー **[巻末資料 3]**

開催日時：2021年2月2日（火）17：00～19：00

テーマ：オンライン授業におけるインストラクショナルデザイン
～コロナ禍の経験を活かして大学の授業をアップグレードするために～

講師：鈴木克明（熊本大学教授システム学研究センター長，大学院教授システム学専攻長・教授）

参加者数：88名

（4）第21回FDワークショップ **[巻末資料 4]**

開催日時：2021年9月4日（金）13：00～17：10

テーマ：大学職員による教学改革のためのデータ活用・分析
～Society5.0時代の大学における学びに向けて～

参加者数：95名

4 その他

2019年度FD推進センター年報の発行

2020年度教育開発・学習支援センター年報の準備

<学習サポートユニット>

I 2020年度活動計画（2020年7月16日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1 活動目的

「学習支援ハンドブック」の利用促進、「ピアネット運営委員会」および「学習ステーション運営委員会」の運営、Lステゼミなどを活用した学生の正課外学習の充実、ピアネット全体の有機的な運営の検討、学生の学習環境支援に関する運営（学習環境改善検討委員会委員など）

2 活動計画

(1) 学習ステーションの活動をオンラインで継続

学生から出された企画案に基づき、オンラインで実施可能なものを行う

(2) オンライン「Lステゼミ」の実施

「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供する次のテーマを実施する

- ①レポート作成の“基本の基本”を学ぼう！
- ②大学図書館を有効活用！レポート・論文資料の探し方
- ③クィア・スタディーズ入門—ジェンダー、セクシュアリティについて学ぶ人のために
- ④法政発スタートアップに見る起業プロセス
- ⑤体脂肪の増減に関わる運動と栄養の話
- ⑥with コロナ時代の観光の行方

(3) 『学習支援ハンドブック』の修正

現行版の修正にとどめるが、次のセクションは説明を追加する

- ①レポートの書き方 (p. 34) → 「英文ライティングの基本」の説明を1~2ページ追加
- ②法政大学お宝コレクション (p. 72) → 「HOSEI ミュージアム」の説明を1~2ページ追加

(4) 『学習支援ハンドブック』の利用促進

- ①LFセンターWeb ページ上で、『学習支援ハンドブック』のオンデマンド・コンテンツの紹介を行う
- ②『学習支援ハンドブック』の活用促進に向けた具体案をユニット・メンバーで議論する

(5) ピアネット・コンピテンシーテストの実施

ただし、新型コロナウイルス感染症による影響のためピアネットの活動が行われておらず、回収可能サンプル数は未定

(6) ピアネット合同研修会、ピアネット所属ユニットの協同プログラムの実施

オンラインなどでの実施可能性を検討し、可能な場合は実施する

(7) 新入生サポートのオンラインでの実施 (5/11 (月) ~5/15 (金))

(8) 学生用 Zoom ファーストガイドの公表 (4/28 (火))

3. ユニット・メンバー（五十音順、*ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

安達 暉（学務部学部事務課）／安藤 光平（学務部教育支援課[事務局]）／*高橋 美穂子（経営学部）／竹内 晶子（国際文化学部）／**田路 則子（経営学部）／多田 和美（社会学部）／野田 岳仁

II. 2020 年度活動実績 (報告)

1 学習ステーションの活動をオンラインで継続

オンラインにて従来対面で実施していた「学生企画型プログラム」、「OB・OG トーク」、「職員トーク」、「L ステゼミ」を実施。

2 オンライン「L ステゼミ」の実施

【巻末資料 6】

「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供する場として、次のL ステゼミをオンラインで実施した。

- (1) 7月10日(金)と1月15日(金)の2回実施
「レポート作成の“基本の基本”を学ぼう!」多田和美准教授(社会学部)
- (2) 7月14日(火)と12月21日(月)の2回実施
「大学図書館を有効活用!～レポート・論文資料の探し方～」有川博隆氏(図書館事務部)
- (3) 11月11日(水)
「体脂肪の増減に関わる運動と栄養の話」林容市准教授(文学部)
- (4) 11月18日(水)
「法政発スタートアップにみる起業プロセス」田路則子教授(経営学部)
- (5) 12月2日(水)
「クィア・スタディーズ入門—ジェンダー、セクシュアリティについて学ぶ人のために」
岩川ありさ准教授(国際文化学部)
- (6) 12月9日(水)
「with コロナ時代の観光の行方」野田岳仁准教授(現代福祉学部)

3 学習支援ハンドブックの修正

【巻末資料 7】

2020年度版の修正に加え、「英文ライティングの基本」、「HOSEI ミュージアム」のページを追加した。
3月19日に納品予定。

4 学習支援ハンドブックの利用促進

- (1) LF センターウェブページにて、『学習支援ハンドブック』のオンデマンド・コンテンツを公開した。
- (2) 『学習支援ハンドブック』の活用促進に向けた具体策を協議し、①ウェブ上のオンデマンド・コンテンツ利用促進のため、『学習支援ハンドブック(紙媒体)』の関連ページにQRコードを示すこと、②『学習支援ハンドブック』の各項目をテーマとするL ステゼミ(シリーズ企画)を実施すること、③学習支援システムを通じて、学習支援ハンドブックの活用方法を新入生に案内することなどが提案された。2021年度の実施に向けて調整を行う。

5 ピアネット・コンピテンシーテストの実施

ピアネット・コンピテンシーテストは実施されたものの、新型コロナウイルス感染症の影響からピアネットの活動自体が減り、テストの受験数が激減したため、分析は困難な状況である(回収サンプル数: 2019年度 639件、2020年度 79件)。

2021年度以降に向けて、個人単位や少人数でも分析ができるよう、外部試験導入等も視野に入れた調査・検討を開始している。

6 ピアネット合同研修会、ピアネット所属ユニットの協同プログラムの実施

- (1) ピアネット合同研修会

ピアネット合同研修会実施の目的は、学生スタッフ達のスキルアップもさることながら、ユニットの垣根を超えた学生スタッフ間の交流であるため、オンライン開催での目的達成は困難と判断し、開催を見送った。

(2) ピアネット所属ユニットの協同プログラム

初の試みとして「新2年生サポート Days」を開催予定 (3/17 (水) ~3/19 (金))。

本企画では、ピアサポートの精神に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響から大学に満足に通うことができなかった1年生の次学年へのステップアップをピアネット全体でサポートする。

7 新入生サポートのオンラインでの実施 (5/11 (月) ~5/15 (金))

(1) 期 間 5/11 (月) ~15 (金) 10:00~16:00

(2) 新入生サポーター数 21 人

(3) 合計実施コマ数 (1 コマ 40 分) 266 コマ

(4) 参加新入生数 90 人

8 学生用 Zoom ファーストガイドの公表 (4/28 (火))

学生の学習支援を行うため、4月28日(火)に緊急的に Zoom の利用方法についてのファーストガイドを作成、LF センターのウェブページ上で公表した。本ガイドは一定の役目を終えたことから、新年度はウェブページから削除する。

以 上

<データ活用推進ユニット>

I. 2020年度活動計画（2020年7月16日の教育開発支援機構企画委員会で報告された内容）

1. 活動目的

「学生による授業改善アンケート」の企画・分析・報告書作成、「FD 川柳」の企画・実施と年報発行やHPなどの広報活動、正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討、IR・他アンケートとの連携、基盤学習および発展学習に対する教員または学生の支援施策の検討

2. 活動計画

(1) 授業改善アンケート新システムの導入・運用

既に新システムはほぼ完成している。前のシステムよりも柔軟な調査が可能であり、同システムの他大学での活用事例が集まってきている（卒業時調査、緊急調査、就職活動調査、教員向け調査など）。前のシステムではシステムと集計・分析を別の会社が担当していたが、新システムでは同じ会社が担当するので手間も減る見込みである。なお、新システムの導入・運用については年度内に結論を得ることとする。

(2) 2019年度学生による授業改善アンケート全学集計結果報告書作成

- ①2019年度全学集計結果は既に出ている。
- ②報告書をユニット・リーダーが作成し、基本的には2018年度の報告書の数字を2019年度に置き換え、それに合わせて文言を修正する。
- ③サブリーダーは報告書のチェックを担当する。

(3) ミクロ分析

- ①昨年度はディプロマ・ポリシー別GPA分析を実施し、経済学部より成績に関するマイクロデータを提供してもらった。
- ②本年度もデータの提供をお願いし、引き続き分析を実施する。
- ③経済学部教員でもある池上サブリーダーがミクロ分析を担当する。

(4) 「FD 川柳」の企画・実施と年報発行やHPなどの広報活動

- ①FD 川柳を実施するか否かを決定する。
- ②FD活動を広報していく必要性が指摘されていること、どのような広報手段が効果的か、昨年度はポスターを提案したが、コロナの時代にはオンラインでの広報の方が効果的かとも思われる。
- ③北浦サブリーダーが検討を担当する。

(5) 正課・正課外を含む学習成果の可視化に関する検討

- ①どのような学習成果の可視化の事例があるのか、他大学などの事例を調べる。
- ②学内の正課外学習成果の可視化の分析例を確認する。
- ③黒川メンバーがそれらの資料をサーベイする。

(6) IR・他アンケートとの連携・基盤学習および発展学習に対する教員または学生支援施策の検討

- ①昨年度は総長室付大学評価室 IR 担当の森山メンバー、井芹メンバーが検討をした。
- ②今年度も引き続き検討を行う。なお、この業務は（３）の業務と重なるものである。

3. ユニット・メンバー（五十音順、*ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

池上宗信（経済学部）／石毛満悠（学務部教育支援課）／井芹俊太郎（総長室大学評価室 IR 担当）／岩田裕美（学務部教育支援課[事務局]）／北浦康嗣（社会学部）／黒川哲治（生命科学部）／*菅幹雄（経済学部）／森山祐紀（総長室大学評価室 IR 担当）

II. 2020 年度活動実績（報告）

1. 『2019 年度学生による授業改善アンケート全学集計結果報告書』の作成 [巻末資料 8]

- ・ユニット・メンバーが『2019 年度授業改善アンケート全学集計結果報告書』を作成した。
- ・同報告書（学部）は第 2 回 データ活用推進ユニット会議（2020 年 6 月 26 日）に、同報告書（大学院）は第 3 回 データ活用推進ユニット会議（2020 年 7 月 21 日）に報告、承認された。
- ・同報告書（学部及び大学院）は第 5 回ユニット・リーダー会議（2020 年 9 月 1 日）に報告、承認された。
- ・ユニット・リーダー会議承認後、第 9 回学部長会議（2020 年 9 月 17 日）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

2. 2020 年度春学期 オンライン授業に関する学生対象アンケートの実施・分析・報告 [巻末資料 9]

- ・ユニットでアンケート調査票を検討・作成し、調査票案は第 3 回 データ活用推進ユニット会議（2020 年 7 月 21 日）で承認された。
- ・同調査票は第 4 回ユニット・リーダー会議（2020 年 7 月 14 日）で承認された。その後、第 3 回教育開発支援機構企画委員会（2020 年 7 月 16 日）にて寄せられた意見を反映の上、第 8 回学部長会議（2020 年 7 月 23 日）に報告、承認された。
- ・アンケート調査は 2020 年 7 月 27 日（月）～8 月 7 日（金）に、全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）を対象として実施された。実施方法は、Google フォームで実施するものであり、Web 掲示板にフォームへのリンクを掲載し、通知により回答を依頼した。
- ・調査実施後、教育開発・学習支援センター内で集計を行ったものを、総長室大学評価室 [IR 担当] が分析し、それをデータ活用推進ユニットでまとめた。
- ・分析結果は 3 回に分けて学部長会議に報告し、2020 年 11 月 16 日のオンライン授業支援特設チーム主催交流会でも報告された。
- ・分析結果を『2020 年度春学期 オンライン授業に関する学生対象アンケート報告書』にまとめ、第 8 回データ活用推進ユニット会議（2020 年 12 月 1 日）で承認を得た。
- ・同報告書は第 8 回ユニット・リーダー会議（2020 年 12 月 8 日）で報告、承認された。
- ・ユニット・リーダー会議承認後、第 15 回学部長会議（2020 年 12 月 17 日）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

3. 2020 年度秋学期 オンライン授業に関する学生対象アンケートの実施・分析

- ・ユニットで春学期とは異なるアンケート調査票を検討・作成し、調査票案は第 9 回 データ活用推進ユニット会議（2021 年 2 月 8 日）で承認された。
- ・同調査票は第 8 回ユニット・リーダー会議（2020 年 12 月 8 日）で承認され、その後第 16 回学部長会議（2021 年 1 月 14 日）に報告、承認された。
- ・アンケート調査は 2021 年 1 月 25 日（月）～2 月 5 日（金）に、全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）を対象として実施された。実施方法は、Google フォームで実施し、Web 掲示板にフォームへのリンクを掲載し、通知により回答を依頼した。備考として、調査項目は英語版も作成し、日本語版とアンケートフォームを分けて実施した。また、調査実施後、教育開発・学

習支援センター内で集計を行った。2021年2月現在、分析を実施している。

4. 2020年度秋学期学生による授業改善アンケートの実施

・授業改善アンケートシステムのリプレイスが完了し、新システムを利用して秋学期にアンケートを実施した（秋学期前半：2020年10月26日（月）～2020年11月16日（月）、秋学期期末：2020年12月7日（月）～2021年2月10日（水））。

以上

巻末資料

1 第1回 FD 教員セミナー

「オンライン課題・試験の学習支援システムにおける活用事例ミーティング」(2020年7月4日)



ケース④レポート課題をルーブリックで評価する

ルーブリック評価は曖昧な評価基準になりやすいパフォーマンスの評価に適している。評価すべき項目と、評価の段階を定め、期待される具体的な行動・成果をレベル別に分ける。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
具体性	記載されていない空欄の項目がある	すべての項目に該当する内容が記載されている	生徒と教師の活動が具体的に書かれている	生徒の反応などが想定されている	ワークシートなど必要なものが付られている
主体性	すべてが教師からの一方的な指示	教師からの指示を踏まえて生徒が自ら動く	生徒が決定する	生徒が決定する場面で教師が選を示す場面が分けられている	何事も生徒が決定できるように仕掛けがある
対話的	交流活動がまったく含まれていない	生徒同士の交流がある	生徒と教師の交流がある	生徒と家族や地域住民との交流がある	生徒に対し家族や地域住民からのフィードバックがある
深さ	生徒にとって身近で興味を惹く話題でない	生徒にとって身近な話題である	生徒が知的好奇心を惹く単元設定である	生徒が知的好奇心を惹きとられる	生徒によって深さの体験がある

2 第2回 FD 教員セミナー

「著作権法 35 条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作」(2020年11月21日)

2020年度FD教員セミナー
「著作権法35条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作」

新型コロナウイルス対応の緊急措置により、施行が先延ばしされていた改正著作権法35条(2018年5月25日法律第30号)が2020年4月28日に施行された。同時に、関係者フォーラムの真剣かつ熱い議論を経た暫定ガイドラインが公開されるに至った。ここでは、その内容を説明するとともに、ガイドラインで意見集約が先延ばしにされた部分、動画配信サービスの規約を重ね合わせることで表面化する問題等を検討する。後半では、新35条の改正内容を踏まえて制作したオンライン教材を使い今後の教材作成の方向性を議論します。



講演者プロフィール
 木村 友久 (きむら ともひさ)
 常盤大学共済教育センター センター長 教授
 常盤大学経済学部専攻 専門分野は知的財産法、教育工学、産学連携、産学教育、産学教育。
 主な著書に『ガイドブック 大学の授業改善』(共著) (有斐閣、1999)。『加計教育の裏面と理論』(共著) (白翰書房、2013)。『大学と研究機関、技術科と機関のための知財契約の実務的実務マニュアル』(共著) (経済産業調査会、2011)。2008年4月 総務庁長官賞(産学連携推進関係功労者表彰)受賞

日時 2020年11月21日(土) 13:00-15:00
【開会挨拶】 13:00-13:05 酒井 理 (キャリアデザイン学部教授・教育開発・学習支援センター教育サポートユニットリーダー)
【講演】 13:05-14:25 木村 友久 (常盤大学共済教育センター センター長 教授)
【質疑応答】 14:25-14:50
【閉会】 15:00

対象者: 本学教員(専任・兼任、今年度新任専任教員は参加必須)
※今年度新任専任教員も必ずお申し込みください。
参加費: 無 料

実施方法: Zoomにて実施予定
※お申し込み後にメールにてお知らせいたします。

主催/共済大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
【E-mail】 kyoko@hosei.ac.jp **【TEL】** 03-3264-9040
【URL】 <https://www.hoseiyojima.jp/>

お申込み
 ~11月18日(水)まで
申込フォーム
<https://forms.gle/w75t58JWw1XCdM2T7>
※常盤大学emailへのログインが必要です。



3 第3回 FD 教員セミナー

「オンライン授業におけるインストラクショナルデザイン」(2021年2月2日)

2020年度第3回FD教員セミナー

「オンライン授業におけるインストラクショナルデザイン」

～コロナ禍の経験を活かして大学の授業をアップグレードするために～

コロナ禍で誰も望んでいないオンライン授業を経験した今、これからの大学の授業をどのようにすべきか、せっかくの経験を活かしてオンラインの要素を取り入れることは可能なのか、期待と不安が高まっている。本講演では、教育工学研究の成果であるインストラクショナルデザイン(授業設計学)の視点を紹介するとともに、オンライン授業の教育効果を高めるための授業設計方法において意識すべきポイントや情報通信技術を活用して次世代の大学に成長させるための要件等を紹介する。また、事前に質問を受け付け、代表的な質問に対し回答し、受講者と共有することで、インストラクショナルデザインについて理解を深める。

講演者プロフィール
鈴木 聡明 (すずき かつあき)
法政大学教授システム学専攻センター長、大学院教授システム学専攻長・教授
Ph.D. (フロッグダ州立大学教授システム学専攻)、i3d1@fpu.ac.jp、理事(2001-2014)、日本教育工学学会理事・第9代会長(2017-2021)、教育システム専攻学会顧問、日本教育メディア学会理事・常任会長(2012-2020)、日本遠隔教授システム学会常任理事、日本イーラーニングコンソシアム名誉会員など。
主著に「研修設計マニュアル」、「教材設計マニュアル」、「授業設計マニュアル(法政版)」、「教育工学を始めるよ(法政・編製)」、「インストラクショナルデザインの原理(共監訳)」、「学習支援をデザインする(監訳)」、「インストラクショナルデザインとテクノロジー(共監訳)」がある。
ウェブサイト | <http://www.esil.kumamoto-u.ac.jp/kazuki/suzuki-i.html>

日時 2021年2月2日(火) 17:00～

【開会挨拶】 17:00-17:05
【講演/質疑応答】 17:05-19:00
【閉会】 19:00

対象者 本学教員(専任・兼任)
参加費 無料

実施方法 Zoomにて実施
※詳細は申込メールにてお知らせいたします。

お申込み
1月31日(日)まで
申込フォーム
<https://forms.gle/vhrE4ZrJdJAHe98>
※法政大学Gmailへのログインが必要です。

主催/法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
[E-mail] kyoiku@hosei.ac.jp [TEL] 03-3264-9040
[URL] <https://www.hosei.ac.jp/ifu/>



4 第21回 FD ワークショップ

「大学職員による教学改革のためのデータ活用・分析」(2020年9月4日)

FD 法政大学 第21回FDワークショップ 学務部・千代田区キャンパスコンソ 教職員対象

大学職員による教学改革のためのデータ活用・分析

～Society5.0時代の大学における学びに向けて～

人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)等の技術が高次元化し、様々な産業や社会に取り入れられ、社会そのもののあり方が劇的に変わること示唆し、推測されたSociety 5.0時代がやってきます。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」においても、Society 5.0の実現に向けた取り組みが加速し、同時に、新たな価値が生み出される「知識集約型社会」が到来するといわれています。「知識集約型社会」の到来に伴い、職業代替可能性を格段に高め、仕事の仕方や身に寄せておくべきスキルや能力が、現在想定されているものから大きく変化していくことが予想されています。

今後、情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となっていきます。Society5.0時代に備え、大学職員として、その能力を養い、本学として進む方向について主体的に考察し、提案できる職員になるためには、どうしたらよいのかを一緒に考えていきます。

日時 2020年9月4日(金) 13:00～17:00

会場 法政大学市谷キャンパス外濠校舎 S405教室(予定)
※状況によってオンラインで実施する場合があります。

主催 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター・学務部

共催 千代田区キャンパスコンソ

＜第一部＞ 13:00～14:30
●開会挨拶
教育支援本部担当常務理事・副学長 廣瀬克哉(法学部教授)
●講演 13:10～14:10
「大学職員に必要なデータリテラシー」
大学評価部 取組担当 専門職員 井井俊太郎
●講演 14:10～14:30
「オンライン授業に関する学生対象調査の結果について」
教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
データ活用推進ユニットリーダー 菅 幹雄(経済学部教授)

●第二部 14:40～17:00
●グループワーク 14:40～15:40
●昼食 15:45～16:50
●講師・総合挨拶
教育支援機構本部・学務部長 早山喜雄

申込方法
●以下のURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申し込みください。
●法政大学職員で学務部以外の方は、申込前に必ず所属長の許可を得てから、お申し込みください。
<https://forms.gle/P2Wz0Bz27JLWZehZ7>

申込締切:2020年8月28日(金)
※定員になり次第締め切ります。
※個人情報は厳重に管理し、イベント以外に目的で活用いたしません。

お問い合わせ先
法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-9040 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

アンケート実施概要

2020年4月21日(火)より全学的にオンライン授業を実施するなかで、学生がどのように学習に取り組んできたのか、またどのような点に課題を感じているかを把握し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。

アンケート実施期間:2020年7月27日(月)～8月7日(金)
対象:全学部生・大学院生
(通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む)
実施方法:Googleフォーム
回答数:8,307名(回答率:約28.4%)

【テーマ①】
業務における課題解決のためのデータ活用について

日頃の業務で抱えている・感じている課題・問題について整理し、データ収集・分析を活用して、解決するための方法を考えてみましょう。

▶ 日頃の業務における悩みや課題・問題だと思っていることを発表して、グループ内で共有する。
▶ 共有した課題・問題について、1つ以上を取り上げ、その解決に向けて、以下の手順で調査計画を立てる。

- ① どのような課題・問題があるか。
- ② その課題・問題が解決するとどうなるか。
- ③ その課題・問題を解決するための調査として「必要なデータ」や「不足している知識」はなにかな。
- ④ 必要なデータ等を取得するために「どのような対象に」対して、「どのような調査を行う」のか、また実験であれば「どのような環境で、どのような方法で測定を行う」のか。
- ⑤ 得られる調査結果を予想。

5 授業リフレクションのための学生による授業参観

2020年度秋学期

学生募集 授業リフレクションのための学生による授業参観

教育開発・学習支援センターでは、学生と教員が共に授業をより良くすることを目的に、**学生による授業参観の参加者を募集**します。

学生は受講者としてではなく、教員でも受講者でもない第三者の立場として**授業参観**としていただき、授業に関して気になった点を教員にフィードバックしていただきます。

【授業リフレクションのための学生による授業参観とは】
 学生視点の意見を取り入れ、授業改善に活かすための制度です。
 事前研修を受けていただいた学生により、**授業参観**を行います。
 学生は授業参観を行い、チェックシートを基に学生の視点から、授業の行い方等(話し方、振舞方法等)について、気になった点を教員にフィードバックします。教員は、学生からのフィードバックを受けて得た気づき、今後の授業改善に役立ちます。

【応募条件】 以下すべてを満たすこと
 1 法政大学に在籍中の学部生・大学院生
 2 企業の本音に賛同し、積極的な責任のある意見を発言できる方
 3 事前研修に必ず参加できること
※研修日程: 10月10日(土)13:00~14:30 ※Zoomにて実施予定

【授業参観の実施期間】
 2020年10月26日(月)~2021年1月20日(水)
 ※上記期間のうち任意の担当授業1コマ(複数担当も可能です)

【実施までの流れ】
 事前研修(90分) ⇒ 担当教員と事前打ち合わせ ⇒ 授業参観(100分) ⇒ 教員へのフィードバック
 ※授業スケジュールとのマッチングが成立しない場合は、授業への派遣ができません。派遣されない方は、選別として5,000円分のクーポンを差し上げます。

【申込方法】
 下記より申し込みください。(法政大学gmailへのログインが必要です)
<https://forms.gle/ajNrvkYuhVkvXVHD9>
申込期限: 2020年10月2日(金)12:00まで

お問い合わせ:
 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター(事務局:学務部教育支援課)
 TEL: 03-3264-9040 E-mail: kyokai@hosei.ac.jp

専任・兼任講師の皆さまへ

2020年度秋学期 授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見を取り入れ、教員の授業や教育方法の改善に活かすための制度です。

- ✓ 授業改善に関心の高い学生を募集し、事前研修を実施
- ✓ 複数の学生(複数学生以外)を派遣し、教員と事前打ち合わせを実施
- ✓ 所定のチェックシートに基づき、学生は受講者と異なる視点から客観的に授業を参観し、授業の進め方(話し方、振舞方法等)をチェック(専門的な内容を除く)
- ✓ 学生から該当授業担当教員のみへ建設的なフィードバックを行う(フィードバックの内容を第三者が見ることはありません)

～前年度チェックシート※今後変更の可能性もあります～

氏名	所属	担当授業
山本 太郎	経済学部	経営学Ⅰ
田中 花子	経済学部	経営学Ⅱ
佐藤 健一	経済学部	経営学Ⅲ
鈴木 美咲	経済学部	経営学Ⅳ
高橋 誠二	経済学部	経営学Ⅴ
伊藤 真由	経済学部	経営学Ⅵ
渡辺 拓也	経済学部	経営学Ⅶ
山崎 悠太	経済学部	経営学Ⅷ
松本 莉子	経済学部	経営学Ⅸ
石川 大輔	経済学部	経営学Ⅹ
木村 千尋	経済学部	経営学Ⅺ
水野 悠斗	経済学部	経営学Ⅻ
森田 悠希	経済学部	経営学Ⅼ
山本 悠斗	経済学部	経営学Ⅽ
田中 悠斗	経済学部	経営学Ⅾ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学Ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅰ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅱ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅲ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅳ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅴ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅵ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅶ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅷ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅸ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅹ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅺ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅽ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅾ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
佐藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
鈴木 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
高橋 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
伊藤 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
渡辺 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山崎 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
松本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
石川 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
木村 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
水野 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
森田 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
山本 悠斗	経済学部	経営学ⅿ
田中 悠斗	経済学部	

7 『学習支援ハンドブック』

(抜粋)



INDEX デジタル版はこちら <https://hosei-hondana.actibookone.com/>

- **02 法政大学へようこそ** WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY
 02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- **10 大学での学びとは** GETTING STARTED
 11 時間割をつくる 13 法政ポータルサイト (Hoppii) について
 22 学習ポートフォリオのすすめ 24 ノートの取り方
 26 メールのマナー 27 ディスカッション
- **28 成績評価・授業改善** GRADE AND COURSE EVALUATION
 28 成績評価を受ける 32 授業改善アンケート
- **34 レポートの書き方** HOW TO WRITE PAPERS 
 34 レポートを書く 35 レポート課題を吟味しよう！
 36 アイデアのまとめ方 ーレポート執筆の下準備ー
 38 レポートの構成 39 論証するには？
 40 アカデミックライティングの基礎 ーパラグラフとはー
 43 先行研究の適切な引用と区別 45 接続表現を適切に使用して論理的に文脈を組み立てよう！
 46 レポート提出前のチェックポイント 47 レポートの文藝術 49 校正記号
 50 レポート書式の例 52 英文レポート書式の例 54 キーボードに慣れよう！
- **56 プレゼンテーション技法** PRESENTATION SKILLS
 56 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 58 プレゼンテーション基礎 ー資料ー
 60 プレゼンテーション本番 ー心掛ー
- **62 文献や情報の集め方** INFORMATION GATHERING 
 63 図書館を使いこなそう！
 66 インターネットで情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- **70 その他** OTHER TOPICS
 70 学生生活支援Q&A
 73 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- **74 法政大学お宝コレクション** SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS
 74 法政大学図書館 76 野上記念法政大学音楽研究所
 77 大原社会問題研究所 78 沖縄文化研究所 79 HOSEIミュージアム

8 2019年度「学生による授業改善アンケート」結果の分析・報告

2019年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書（抜粋）



2019年度

「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

2020年9月

学部..... P. 1～P. 24
 大学院..... P. 25～P. 47

発行：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

学部

1 はじめに

2004年度から開始した「学生による授業改善アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに15年間実施してきました。アンケートは、2009年度の調査・結果・過去の集計、教員への応答を掲載した形での導入を進め「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5票とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

本学は法学部（西ヶ谷キャンパス）、文学部（西ヶ谷キャンパス）、経営学部（西ヶ谷キャンパス）、国際文化学部（西ヶ谷キャンパス）、人間環境学部（西ヶ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（西ヶ谷キャンパス）、デザイン工学部（西ヶ谷キャンパス）、グローバル経営学部（西ヶ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現代福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の15学部から構成され、さらに博士学課程として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が設けられます。本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など多様な理由から2019年度は2,064科目のアンケートを実施しました。尚実習科目を除くと、講義では393科目（講義全体の約20%）、演習では442科目（演習全体の38%）、読書では225科目（読書全体の74%）、実教では134科目（実教全体の38%）、実習では111科目（実習全体の25%）であり、少人数で行う講義科目やゼミや研究がメインとなる科目が多くなります。これらの非実習科目では、前回のアンケートを行うなどの確認対応が行われています。2019年度のアンケート対象科目数は12,192科目（春学期5,616科目、秋学期6,576科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は10,128科目（春学期5,059科目、秋学期5,069科目）であり、結果として春学期24.3%、秋学期20.3%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）を得るアンケートを実施することができました。すべてのアンケートデータは前年度に年度、春学期、秋学期別に集計して収録しています。

春学期実アンケートは、2019年6月28日（金）～8月6日（火）（4期制の学部・専攻科は5月～6月にも実施）に実施し、秋学期実アンケートは、2019年12月9日（月）～2020年2月7日（金）（4期制の学部・専攻科は10月～11月にも実施）の各学期（12月25日～1月7日）を連続して実施しました。

本年度アンケートを実施できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を主FD推進センター（現教育開発・学習支援センター）の活動へのご理解のおかげで実現を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を託した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および研究の質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の満足度を求めた問1～問4の単独集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

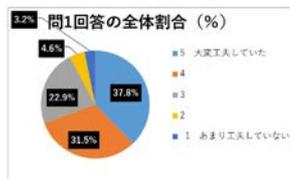
FD推進センター（現教育開発・学習支援センター）の主たる目的である「教育および研究の質の向上」ですが、教職員と学生側とはその発するポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関する「教員の教職」と問4に関する「学生の授業」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく記しました。具体的には、「教員の教職」では理解度を問3を中心とした分析、「学生の授業」では満足度を問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単独集計は学期別、科目種類別、講師属性別、科目設置主体別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の随時把握を見るため、問1～問4の回答率の集計と回答学生数の経年変化を示しました。

3. 教員の教職に関するアンケート回答について

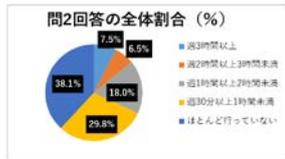
(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問1は「この授業では、積極的な工夫がなされていました」とし、それに続き、回答へある程度イメージをもってもらうために「例えば、動画、授業資料、授業録、スクリーンを見せたり、話し方、異議や主体的な学びへの促しなど、5段階評価でご回答ください」とを添えています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた（5）と（4）を合わせた69.3%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫していない「1」と「2」を合わせた7.8%の学生が授業の工夫を求めていました。平均値は春学期が3.92、秋学期は4.01、中央値は春・秋学期とも4であるので、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。



(2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問1はこの授業に関しては、授業時間内では、平均してどれくらい授業外で学習していますか」とし、それに続き、回答へある程度イメージをもってもらうために「例えば、学習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との相談や質問も含む」とを添えています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は32%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は38.1%でした。大学設置基準は、学生が学習・復習に何らかの時間をかけることを前提に到達目標を定めて授業を行うように規定しています。また、2012年8月に中央教育審議会が公表した「資料2 教育課程」では、「事前学習、授業収録・事後復習を成した主体的な学習に資する総学習時間の確保が不可欠」との認識が示されており、2104年12月に公表された第4号でも、アメリカの大学生に比べて日本の大学生の学習時間が短いことが指摘されています。それらを踏まえると、今後も、学生の授業外学習時間をいかに確保していくかが課題になると考えられます。



(3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できました。（5段階評価でご回答ください）」として理解内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に占める（5）（4）の回答割合は63.7%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は16%でした。平均値は春学期が3.77%、秋学期が3.87%、中央値は春・秋学期とも4であるので、全体的には理解できたと自己評価したことになります。

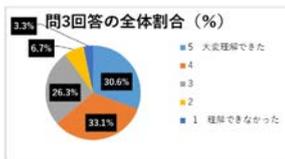


図4. この授業を履修してよかったと思えますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答した 授業数	回答した学 生数	回答数	1	2	3	4	5	1-5の 合計
＜全体＞	4,569	11,807	46,875	21,374	13,279	10,470	2,191	1,561	
＜学年別＞									
1年		4,794	25,369	10,678	6,940	5,614	1,248	889	
2年		3,176	13,524	5,694	3,764	3,032	598	437	
3年		2,444	8,139	3,853	2,229	1,551	299	267	
4年		867	1,762	1,955	379	215	46	27	
60歳		26	81	54	17	9	0	1	
＜科目領域別＞									
講義(60分)	2,212	11,079	12,640	8,823	7,182	1,450	944		
25-49分	548	2,294	1,283	555	341	76	30		
25-49分	579	4,960	2,321	1,287	983	222	147		
50-99分	528	8,844	3,542	2,562	2,017	419	304		
100-199分	351	8,025	2,876	2,441	2,047	409	252		
200-299分	110	1,653	1,955	856	832	187	123		
300分以上	86	3,863	1,563	1,122	962	137	79		
演習	683	3,943	2,278	866	556	132	111		
演習	1,480	11,874	5,478	3,129	2,330	529	448		
実験	92	1,156	480	341	241	49	45		
実習	94	873	540	169	111	20	12		
実習	8	10	8	1	0	1	0		
＜専攻領域別＞									
総論	1,614	15,367	6,658	4,080	3,209	768	629		
応用	2,955	33,508	14,716	9,326	7,111	1,423	932		
＜担当教員別＞									
曹田	1,830	21,859	9,275	6,044	4,853	995	692		
曹田	2,739	27,016	12,099	7,285	5,567	1,196	869		
＜担当科目領域別＞									
理工学類	1,155	11,304	5,409	3,098	2,030	452	306		
総合学類	1,220	11,275	5,470	3,069	2,080	407	310		
小倉学類	585	6,436	2,929	2,386	2,357	466	304		
小倉学類	277	3,125	1,221	827	795	154	128		
多摩学類	1,140	13,709	5,797	3,709	3,039	687	477		
講義実習	123	601	325	148	87	26	20		
その他	69	403	273	92	28	5	7		

大学院

1 はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに15年間実施してきました。アンケートは、2009年度の調査・算出・開示の実施、教員への非公開を確保した前形式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を3票とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

本学の大学院は、人文科学研究科（西ヶ谷キャンパス）、基盤文化研究科（西ヶ谷キャンパス）、経済学研究科（西ヶ谷・多摩キャンパス）、法学研究科（西ヶ谷キャンパス）、政治学研究科（西ヶ谷キャンパス）、社会科学研究科（西ヶ谷・多摩キャンパス）、経営学研究科（西ヶ谷キャンパス）、公共政策研究科（西ヶ谷キャンパス）、人間社会研究科（多摩キャンパス）、情報科学研究科（小金井キャンパス）、デザイン工学研究科（西ヶ谷キャンパス）、政策創造研究科（西ヶ谷キャンパス）、キャリアデザイン研究科（西ヶ谷キャンパス）、理工学研究科（小金井キャンパス）、スポーツ健康科学研究科（多摩キャンパス）の15研究科と3インスティテュート（国際日本大学インスティテュート、滋養社会インスティテュート、総合理工学インスティテュート）から構成され、さらに大学院の専門職学位課程として専門職大学院（法科大学院、経営大学院）が並びます。本アンケートの対象は本学大学院で履修する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態などの理由から博士後期課程には行っておりません。また、開校当初から2019年度は1914科目のアンケートを実施しました。授業科目数を科目別で見ると、課外では582科目（履修全体の35%）、課外では1,118科目（履修全体の64%）、実教では180科目（実教全体の93%）であり、ゼミや研究がメインとなる科目も多くあります。2019年度のアンケート対象の全科目数は3,244科目（春学期1,355科目、秋学期1,889科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は744科目（春学期384科目、秋学期360科目）であり、結果として修士課程は春学期35.1%、秋学期24.7%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）、専門職学位課程は春学期32.1%、秋学期18.6%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）を記録しました。春学期は春学期、秋学期は秋学期に実施として収録しています。

春学期調査アンケートは、2019年4月28日（金）～8月6日（火）（4週間の学習・研究科は5月～6月にも実施）に実施しました。また、秋学期調査アンケートは、2019年12月9日（月）～2020年2月7日（金）（4週間の学習・研究科は10月～11月にも実施）の春学期（12月25日～1月7日）を併行して実施しました。本年度アンケートを終了させたのは、教職員ならびに関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含めFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）の活動へのご理解にたいして心から感謝申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を執した本報告書が、関係者各位の卒に於ける「教育および学びの質の向上」の一助にはなれば幸いです。

2. 全学集計結果について

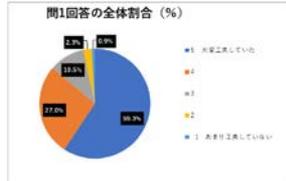
本報告書では、5段階の満足回答を求めた問1～問4の単独集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記述しました。FD推進センター（現教育開発・学習支援センター）の主たる目的「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉えのポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関する「教員の側面」と問4に関する「学生の側面」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を整理しやすく記述しました。具体的には、「教員の側面」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の側面」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単独集計は学年別、受講専攻領域別、担当教員別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の随時把握を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生後の随時変化を示しました。

3. 教員の教壇に関するアンケート結果について

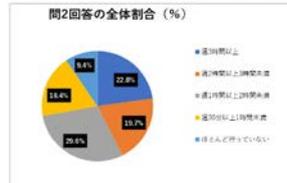
(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問1は「この授業では、確実的な工夫がなされていました」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、教員、授業方法、教科書、スライドの見やすさ、話し方、質疑や主体的な学びへの促しなど、5段階評価でご回答ください」とを添えています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた66.3%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた13.2%の学生は授業の工夫を求めませんでした。



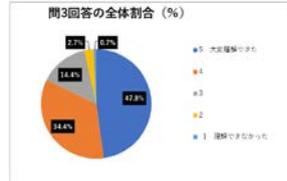
(2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問2は「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、学習、復習、読書、授業内容に関する記事・情報収集など、友人や教員との対話や質問も含む」とを添えています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は72.1%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は9.4%でした。週3時間以上の授業外学習を行った学生は22.8%で、昨年度より減少していましたが（昨年度：24.7%）、また、学部より多い割合でした。



(3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は82.2%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は3.4%でした。



9 オンライン授業に関する学生対象アンケート

春学期（抜粋）

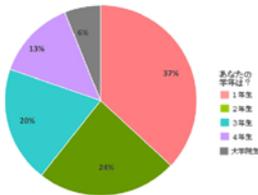
1. はじめに

新型コロナウイルスの感染が広がる中、法政大学では2020年4月21日(水)より全学的にオンライン授業を実施してきました。オンライン授業をこれまで多くの授業で実施したのは、法政大学では過去に例がないことです。こうした新たな状況下で学生がどのように学習に取り組みできたのか、またどのような点に課題を感じているかを把握し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的として、教育開発支援機構教育開発・学習支援センターでは「オンライン授業に関する学生対象アンケート」を実施しました。アンケート実施期間は春学期の授業が終了した直後の2020年7月27日(月)～8月7日(金)。アンケート対象は全学学生・大学院生（遠隔授業の科目を履修している遠隔授業部生を含む）。調査方法としてはGoogleフォームを用いて実施しました。回答数は8,307名、回答率は約28.4%でした。

2. 回答者の属性

(1) 学年・所属

回答者の学年別構成は、次のようになります。1年生が37%、2年生が24%、3年生が20%、4年生が13%、大学院生が6%でした。学年別に大きな異なりなく回答が得られました。



1

5. 学生が工夫を感じたオンライン授業

本学では、2020年度春学期オンライン授業に関するアンケート調査結果から、学生が工夫を感じた授業（Good Practice）について、その結果の概況と事例をトピック別にとまとめます。

(1) 全体の結果概要

有効自由記述回答者8,038名のうち、「授業の工夫を感じた点」に記述したのは2,880名（記述率36.0%）でした。自由記述の内容内容を機械的に分類したところ、①ICTツールの活用、②双方向（教員-学生間）、③資料づくり、④試験・試験、⑤学習過程や授業時間の管理、⑥学生への配慮、という6つに類型化されました（下記参照）。



以下では、各類型の内容について順に見ていきます。まず「①ICTツールの活用」を見ると、本学が活用しているオンライン授業ツールZoomの各種機能（チャット、投票、ブレイクアウト）が有効活用されていたか、Zoomのホワイトボード機能等を使って授業や模試の見せ方に工夫がされていたかという点からの評価です。ICTツールを用いて授業内で発言ができる機会が提供されていたケースや、PowerPointやPDFの資料投影だけでなく、実際に画面で質疑を返しているというような環境が提供されたケースが評価されています。

「②双方向（教員-学生間）」では、オンライン授業内で教員・学生間の双方向やり取りができる環境が提供されていたケースや、授業内容に関する質問やアクションペーパーに対する教員からの回答があったケースが評価されています。

「③資料づくり」を見ると、講義資料を提供する際に音声データが付与されているか否かの評価の決り手となっています。特に、PowerPointの機能を利用してスライドに音声データを付与する点、理解が十分でなかった部分を開き直すことができるという理由から好評のようです。

「④試験・試験」では、「レポートの題材を事前に提示してくれたので早く取り組めた」という回答に見られるように、試験や試験の最中および締め切りについて教員の配慮があったことが評価のポイントとなっています。多くの学生が試験の多さに苦慮を上げていたことも影響していると考えられます。

8

(2) 全体の結果概要

次に、この自由記述回答を用いて、機能的な属性を行いました。まず、一回性のある回答を一単位として、これらの回答の改行コードを削除しました。そして、この各文中にある数値な表記のみ・単語の計10点を修正しました。たとえば、「Zoom」→「Zoom」、「ブレイクアウト」→「ブレイクアウト」、「グループチャット」→「Google Classroom」などです。続いて、この8,548人の自由記述回答データセットに対し、自由記述を8,399語の異なる語彙、168,509語の形態素に分解しました。ここから名詞（非自立を除外）、動詞（非自立を除外）、形容詞、副詞、感動詞、助詞、否定助動詞に該当する単語のみを抽出し、行が各自由記述回答、列がこれらの自由記述に含まれる各抽出単語の出現回数を表すデータセットを作成しました。データセットをもとに、トピックを抽出し、意見の対象と分類でまとめたものが次の表です。

意見の対象	分類	
総論	名詞・動詞	497
総論	形容詞・副詞	939
学問	動詞	1132
学問	形容詞	681
授業	名詞・動詞	1664
授業	形容詞・副詞	635
授業	副詞	757
その他	動詞	633

意見の対象は「総論」、「学問」、「授業」、「その他」の4つに分けています。対象別数は「授業」が最も多く(3,059件)、「学問」(1,813件)、「総論」(1,436件)、「その他」(633件)と続いています。

次に、各対象への意見を「賛成・協議」、「疑問・希望」、「困りごと」、「評価」の4種類に分けました。「授業」への「賛成・協議」が最も多く(1,664件)、「学問」の「困りごと」(1,132件)、「総論」への「疑問・希望」(939件)などが続いています。

(3) 学年別に見た結果概要

大学全体の結果を学年別に分けてみました。それが次の表です。

意見の対象	分類	1年生	2年生	3年生	4年生	大学院生
総論	名詞・動詞	152	119	97	109	19
総論	形容詞・副詞	333	262	179	168	57
学問	動詞	477	273	195	132	55
学問	形容詞	240	153	140	95	53
授業	名詞・動詞	612	468	370	150	64
授業	形容詞・副詞	217	192	163	52	11
授業	副詞	262	175	152	97	51
その他	動詞	316	110	79	74	54

上の表は、学年別に示したものです。この結果からわかる学年別の傾向は次のとおりです。

まず、すべての学年で「授業」への「賛成・協議」が最も多くなります。それ以外の項目に注目すると、1年生は、「その他」の「困りごと」が上位項目に含まれることが分かります。2年生以上は、傾向が同じことが分かります。

13

8. おわりに

春学期「オンライン授業に関する学生対象アンケート」の調査を無事終了し、回答に協力いただいた学生のみなさんへ心から感謝を申し上げます。アンケート回答は大変貴重な情報で、その分析を通じていくつもの貴重な発見を見出し、それらを全学的に共有することができました。これらの回答結果は学習・研究科別にも集計し、フィードバックを行っています。

現在、秋学期の授業が開始しています。アンケート分析結果から、オンライン環境での学びの向上には、充実した質の高いオンライン環境下で選んだ講義選択やフィードバックの工夫が必要であるとの意見を聞くことができました。引き続き、教育開発・学習支援センター（LFC）は各部署と連携しながら、各授業における学習の質向上、そして教員の授業リフレクションや授業改善に向けた様々な活動を支援してまいります。

LFCセンターは、学生のみなさんが本学で「興味深い」授業を受けるよう、それぞれの学修達成に向けて、学生・教員・職員がチームとして協働することをともに目指したいと考えています。今後とも、LFCセンターの取り組みや活動へのご協賛とご協力をお願いいたします。よろしくお問い合わせをお願いします。

お問い合わせ：法政大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター (<http://www.hosei.ac.jp/lfc/>)
 事務局 学習支援センター Tel: 03-3294-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

14

秋学期（抜粋）

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染流行が依然として終息しない中、遠大では2020年度春学期に引き続き秋学期についても金学的にオンライン授業を実施してきましたが、一部では対面授業が再開されました。こうした状況における学生の進学意欲と対面授業、オンライン授業全般の秋学期の印象、春学期から秋学期にかけての変化、オンライン授業で直面した困難を把握し、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的として、教育開発実践情報教育開発・学習支援センターでは「オンライン授業に関する学生対象アンケート」を実施しました。アンケート実施期間は秋学期の授業が終了した直後の2021年1月15日（月）～2月6日（金）、アンケート対象は全学学生・大学院生（遠大課程の科目を履修している遠大総合部生を含む）、回答方法はGoogleフォームを用いて実施しました。回答数は3,772名（日本籍3,742名、英語37名/回答率：約13.1%）であり、別途授業改善アンケートを実施したこともあり、春学期に比べると大幅に回答数が減少しました。

2. 回答者の属性

(1) 学年

回答者の学年別構成は、次のようになります。1年生が41%、2年生が27%、3年生が16%、4年生が8%、大学院生が8%でした。下図は回答者の学年別構成比です。

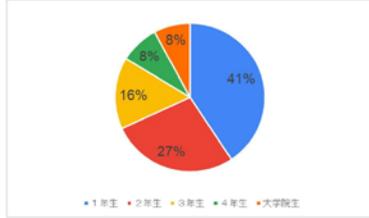


図1 回答者の学年別構成比

1

3. オンライン授業で直面した困難

(1) 全体を通じた秋学期オンライン授業で直面した困難

秋学期オンライン授業についての感想について、以下のように尋ねました。「オンライン授業を継続して受講するに当たり、以下の各項目における困難はありましたか?（複数選択可）」、その結果が図2です。全体を通じてみた場合、最も多かったのは「交友関係」で55.6%でした。ついで、「学習意欲の維持」の42.2%となります。

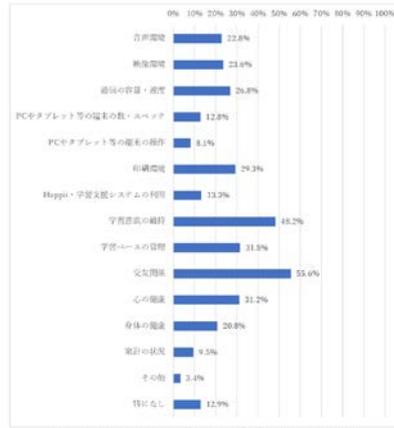


図2 「オンライン授業を継続して受講するに当たり、以下の各項目における困難はありましたか?（複数選択可）」という質問の回答結果

3

(5) 学部別にみた秋学期の通年日数

学年別にみてみると、全ての学部で通年日数取日数が増えてきています。実習や実習が多い場合、通年日数が多い結果となっています（表3）。

表3 学部別にみた秋学期の通年日数

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
法学部	89.4%	8.2%	1.8%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
文学部	73.2%	19.7%	3.2%	1.3%	0.8%	1.3%	0.3%	0.3%	100.0%		
経済学部	82.3%	14.5%	0.8%	0.3%	0.2%	1.3%	0.8%	0.3%	100.0%		
経営学部	79.3%	16.6%	2.4%	0.3%	0.0%	1.2%	0.3%	0.0%	100.0%		
法学部	79.5%	17.0%	1.2%	0.9%	0.8%	0.6%	0.3%	0.0%	100.0%		
人間文化学部	79.9%	17.2%	1.1%	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	100.0%		
人間環境学部	80.9%	4.0%	1.5%	0.9%	1.0%	0.0%	2.9%	0.0%	100.0%		
応用化学学部	47.6%	38.8%	12.1%	0.7%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
情報科学学部	80.3%	3.4%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	83.4%	30.1%	4.1%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	71.6%	39.2%	29.1%	3.5%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	79.7%	16.4%	3.1%	1.0%	0.3%	0.3%	0.6%	0.3%	100.0%		
理工学部	77.9%	31.4%	4.3%	2.1%	1.4%	2.1%	0.7%	0.0%	100.0%		
総合（グローバル（国際）学部）	78.5%	18.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.7%	0.0%	100.0%		
総合（グローバル）学部	78.9%	19.4%	22.6%	8.8%	4.7%	2.3%	3.9%	0.0%	100.0%		
大学院	86.2%	21.2%	8.8%	6.4%	3.7%	2.4%	0.9%	1.2%	100.0%		
その他	79.2%	18.1%	4.2%	1.6%	0.8%	1.0%	0.6%	0.2%	100.0%		

(6) 学部別にみた秋学期の対面授業日数

続いて、秋学期における対面授業日数について見ていきます。これを学部別にみてみると、全ての学年で「0日」が最も多くなっています。実習や実習が多い場合、対面授業日数が多いことが分かります（表4）。

表4 学部別にみた秋学期の対面授業日数

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
法学部	98.7%	6.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
文学部	81.3%	18.5%	2.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
経済学部	89.9%	14.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
経営学部	82.6%	18.4%	1.2%	0.3%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	100.0%		
法学部	88.3%	18.8%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
人間文化学部	82.8%	18.6%	0.6%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	100.0%		
人間環境学部	86.4%	4.5%	0.8%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
応用化学学部	48.5%	39.7%	9.8%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
情報科学学部	58.9%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	64.2%	31.7%	2.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	40.4%	38.8%	29.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
理工学部	68.9%	10.6%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
総合（グローバル（国際）学部）	69.0%	32.1%	1.4%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	100.0%		
総合（グローバル）学部	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
キャリアデザイン学部	47.3%	24.9%	20.2%	8.4%	2.3%	0.8%	0.0%	0.0%	100.0%		
大学院	76.9%	18.8%	4.8%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
その他	79.2%	18.6%	3.0%	0.9%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	100.0%		

(7) 小括

以上の結果を整理しまとめると、次の2点を指摘することができます。ただし、アンケート調査の回答者の多くが1～2年生であった点に注意してください。第1に、秋学期でも多くの学生が大学へ進学できず、対面授業の授業もできていませんでした。第2に、「大学への進学日数」「対面授業の日数」に関して、交友関係・学習意欲の維持・学習ペースの管理という3つで困難を感じる学生が多いことがわかりました。

8

(2) 課題による心身の負担

表5は課題による心身の負担に関する質問の回答結果をまとめたものです。春学期において「課題による心身の負担は少なかつた（か）」という質問に対する回答は各項目に当てはまり、「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答が6割以上（26.9～34.2=61.1%）に及びます。春学期から秋学期の回答の変化は各項目に当てはまり、「変わりない」「やや悪化」「かなり悪化」という回答が7割以上に及びます。秋学期の回答が「あまりそう思わない」「そう思わない」「そう思わない」かつ春学期から秋学期の回答の変化の割合が「あまりそう思わない」「そう思わない」かつ春学期から秋学期の回答の変化の割合が「かなり改善」「やや改善」という回答の占める割合は14.4%でした。

表5 課題による心身の負担に関する質問の回答結果

春学期の印象/変化	かなり改善	やや改善	変わりない	やや悪化	かなり悪化	わからない	統計
そう思う	2.8%	1.5%	5.3%	0.9%	0.3%	0.3%	10.8%
いくらか思う	0.8%	4.4%	6.5%	1.8%	0.8%	0.1%	14.0%
どちらとも思えない	0.3%	2.9%	8.1%	1.4%	0.3%	0.1%	13.1%
あまりそう思わない	0.6%	6.3%	14.3%	4.7%	0.9%	0.2%	26.9%
そう思わない	0.8%	8.7%	14.7%	8.1%	5.8%	0.2%	34.2%
わからない	0.0%	0.1%	0.3%	0.1%	0.1%	0.4%	0.9%
統計	5.4%	21.8%	49.2%	14.4%	7.9%	1.2%	100.0%

(3) 課題等に対するフィードバック

表6は課題等に対するフィードバックに関する質問の回答結果をまとめたものです。春学期において「課題等に対するフィードバックがあった（か）」という質問に対する回答のうち、「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答が55.2%を占めます。また春学期から秋学期の回答の変化が「変わりない」「やや悪化」「かなり悪化」という回答が76.7%に及びます。秋学期の回答が「あまりそう思わない」「そう思わない」かつ春学期から秋学期の回答の変化の割合が「変わりない」「やや悪化」「かなり悪化」という回答の占める割合は46.9%に及びます。

表6 課題等に対するフィードバックに関する質問の回答結果

春学期の印象/変化	かなり改善	やや改善	変わりない	やや悪化	かなり悪化	わからない	統計
そう思う	2.8%	1.3%	3.9%	0.1%	0.1%	0.2%	8.3%
いくらか思う	0.8%	5.4%	9.4%	0.6%	0.1%	0.2%	16.6%
どちらとも思えない	0.2%	3.2%	11.3%	0.9%	0.1%	0.2%	16.0%
あまりそう思わない	0.3%	4.9%	23.8%	3.3%	0.5%	0.2%	33.0%
そう思わない	0.2%	2.5%	16.5%	2.9%	2.9%	0.2%	25.2%
わからない	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.5%	1.0%
統計	4.4%	17.4%	65.2%	7.8%	3.7%	1.5%	100.0%

10